



2030生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）
第5回地域連携フォーラム

2030ネイチャーポジティブに向けた 国際的な動きと自治体

内田 東吾
イクレイー持続可能な都市と地域を目指す自治体協議会



イクレイのご紹介

「イクレイ- 持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会」とは持続可能な未来づくりに取り組む先進的な都市や地域が参加する世界的なネットワークです（参加自治体は2,500以上）

1990年の設立以降**持続可能な発展**（= 社会・経済・環境の両立）を目指す自治体が集まり、**学び合い、国際的な議論に参加**することで、自治体間で高めあい、また自治体の声を世界に届けてきました。

近年、自治体による取組の**国内外への発信**や**地域での取組み強化**にイクレイ日本とそのネットワークを活用いただいている自治体が増えています。



イクレイ日本の組織体制



理事長 竹本 和彦

理事 ジノ・ヴァン・ベギン イクレイ世界事務局長

理事 松井 孝治 京都市長（東アジア地域理事会議長）

理事 小美濃 安弘 武蔵野市長

理事 小池 百合子 東京都知事

理事 武内 和久 北九州市長

理事 松井 一實 広島市長

理事 山中 竹春 横浜市長



正会員 愛知県、飯田市、板橋区、岡山市、葛飾区、川崎市、北九州市、京都市、神戸市、さいたま市、札幌市、佐渡市、下川町、墨田区、東京都、所沢市、鳥取県、富山市、豊田市、長野県、名古屋市、浜松市、広島市、福島県、松山市、武蔵野市、横浜市（五十音順）（計27自治体）

(*2025年1月時点)

イクレイと生物多様性条約（CBD）の関係



- 公式イベントとして、CBDとともに自治体サミットをCOPで企画・開催しています。
- CBDの関係交渉会合において自治体を代表し出席しており、各国自治体の声や現状を踏まえて発信しています。
- 生物多様性条約事務局（SCBD）における自治体窓口を担っており、条約に関連する取組に広く関わっています。

<その他>

国連においては気候変動枠組条約（UNFCCC）や国連環境計画（UNEP）においても同様の役割を担っている他、ラムサール条約（湿地）やプラスチック汚染に係る交渉会合、G7やG20 などでも自治体を代表した活動を行っています。

CBD-COP17（於：アルメニア）



「昆明・モンリオール生物多様性枠組（KMGBF）」の目標：
2030年までに「生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せる」こと（＝ネイチャーポジティブ）と2050年までに「自然と共生する世界」を実現するために、2030年までに陸域と海域の30%以上を効果的に保全する「30by30」や外来種の侵入を半減させるなどの目標が掲げられています。

上記に対して、COP17では世界の進捗を確認し協議を行う事となっています。

<自治体の動き>

- 国際的な目標に対する自治体側からの貢献を発信
- 同時に課題感を共有すること

***自治体に関しては別途 CityWithNature/RegionWithNature などの公式プラットフォームに活動を登録している自治体の情報などからもCBDに対して報告される予定です。**

自治体の課題感と希望



<課題>

- ・資金不足、人材不足、縦割り（他分野との連携の難しさ）

<希望>

- ・住環境改善との親和性が高く、自治体の取組との相性は良い（子育て環境の改善、地産地消・旬産旬消、伝統文化・産業）

→地域資源を基盤にした企業や団体などとの連携活動の推進

*日本には豊富な事例と経験があるものの、**世界にあまり知られていない**

*2026年2月にIPBES Business and Biodiversity Assessment の要約版が発表される予定

ネイチャーポジティブ世界サミット2026 開催概要 (2025年8月時点)

GBFの実践と、ランドスケープレベルの取組加速を焦点に、ネイチャー・ポジティブの目標を推進する
「第2回 ネイチャーポジティブ世界サミット」を2026年7月に日本・熊本で開催する。



(画像) 第1回 ネイチャーポジティブ世界サミットの模様

- ⌘ 主催 ネイチャー・ポジティブ・イニシアティブ (NPI)、国際自然保護連合日本委員会、イクレイ日本
 - ⌘ 共催 環境省、ほか関係省庁にご依頼
 - ⌘ 協力 日経BP
 - ⌘ 後援 NPIコア団体・国内主要団体等企画協力団体
* 政府や経済界等の参画・後援等は決定次第、随時、更新されていく
 - ⌘ 日程 2026年 7月14日・15日(13日、16日はエクスカージョン)
 - ⌘ 開催都市 熊本市・熊本城ホール
 - ⌘ 想定参加者 ネイチャーポジティブ社会の実現に関心のある国内外企業・金融機関、NGO、政府自治体、教育研究機関1,000～2000名(うち海外参加者200名想定)
 - ⌘ 会議フォーマット
- 全体会、テーマ別セッション(複数テーマの平行イベント)、展示/ポスターセッション、サイドイベント(市民交流)、ハイレベル会談(クローズ)、レセプション

グローバルネイチャーポジティブサミットとは

ネイチャーポジティブ*の実現に向けて、世界各地から多様なステークホルダーが集い、対話と協働を促進するためのプラットフォーム。

参加者はこのサミットへの参加を通じて、ネイチャーポジティブ実現に向けた障壁を乗り越えるためのコネクションやネットワークを築くことができるほか、世界各地の優れたネイチャーポジティブ事例の展示から多くのインスピレーションを得ることができる。

記念すべき第1回サミットを2024年にオーストラリア・シドニーで開催。

第2回を2026年に、日本での開催に向けて準備が進んでいる

* ネイチャーポジティブ …自然の損失を止め、回復軌道に乗せることを意味する言葉で、日本語では「自然再興」と訳される。2030年までに生物多様性の損失を止めて反転させ、2050年までに自然と共生する社会を実現することを目標としており、日本国内では、2023年3月に閣議決定した生物多様性国家戦略2023-2030において2030年までにネイチャーポジティブを達成するという目標が掲げられている。

ネイチャーポジティブの実現には、企業、地方公共団体、NGO等をはじめとするさまざまなステークホルダーに協力してもらう必要があり、環境省が事務局を務める「2030生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)」は、ネイチャーポジティブの実現に向けた第一歩として、「ネイチャーポジティブ宣言」を表明してもらうよう呼びかけている。

(背景画像) 第1回 ネイチャーポジティブ世界サミットの模様



参考) Global Nature Positive Summit 2024

GBF*の実施を加速させ、ネイチャー・ポジティブの目標を推進するため、オーストラリア政府は2024年10月8日~10日、シドニーで第1回グローバル・ネイチャー・ポジティブ・サミットを開催。

* GBF …Global Biodiversity Frameworkの略で「(昆明 モントリオール) 生物多様性枠組」を指す。「自然と共生する世界」という2050年ビジョンを掲げ、自然を回復軌道に乗せるために、生物多様性の損失を止め、反転させるための緊急の行動をとることを、2030年ミッションとして掲げている。このミッション実現のため、世界全体で取るべき緊急の行動を3つのグループから成る23のグローバルターゲットを設定。

GLOBAL
NATURE
POSITIVE
SUMMIT
Sydney 2024

- ⌘ このサミットは、環境大臣、企業や金融機関のリーダー、環境保護団体、科学者、学術関係者、市民団体など、50カ国以上から2,000人以上の参加者を集める場となった。
- ⌘ このサミットは、オーストラリア政府の国内アジェンダや、自然保護に積極的な国内法の検討を推進。伝統的、先住民的な知識や慣習を重視し、これらの異なるグループ間で知識を共有し、つながりを構築するユニークな機会を創出し、これらのグループが自然を尊重する未来という共通のビジョンの実現に向けて次のステップを踏み出すことを可能にする、包括的なアプローチも特筆すべきものとなった。

参照：Global Nature Positive Summit Sydney 2024



(画像) 第1回 ネイチャー・ポジティブ世界サミットの模様



参考) 主催団体「NPI」について

2022年に発足した主催団体「**Nature Positive Initiative (NPI)**:ネイチャー・ポジティブ・イニシアティブ)」は、世界の生物多様性危機に対処するため、自然の損失を止め、回復させることを目指す**国際的な連携プラットフォーム**。

- ⌘ NPIは2022年に発足し、国際自然保護連合(IUCN)、世界自然保護基金(WWF)などの国際NGO、Business for Natureといった企業グループ、TNFDやSBT、GRIといった枠組み構築機関、ICLEIなどの自治体ネットワークなど**多様でかつ当該分野をリードする主要な民間組織が連携**している。
- ⌘ NPIは「**共通理解・手法の提案**」に重点を置いており、科学的根拠と実践的なガイダンス、国際社会をけん引する多種多様なリーダー団体のネットワークという特性を活かし、ネイチャーポジティブという用語の定義や評価指標、表記の仕方など、共通の指標と行動指針の整備を進めている。
- ⌘ グローバルサミットには、**27のコア団体のリーダーも参加**し、参加者との議論を通じて、次の行動加速のためのアクションなど、民間からのモメンタム形成を産み出す場となっている。



団体webサイト・
<https://www.naturepositive.org/>



ありがとうございました



LinkedInアカウント

